

公益財団法人ポエック里海財団

令和4年度 事業報告書

(令和4年12月1日から令和5年11月30日)

当財団は、ポエック株式会社がCSRの一環として平成20年から取り組んでいる小佐木島の再生プロジェクト事業（小鷺島バイオアイル計画）を発端とし、広く瀬戸内海の里海の再生及び保護を目指し、不特定多数の者の利益の増進を目的としたものを実施する事業体として、前身である一般財団法人ポエック里海財団が平成23年12月に設立した。

当財団は、「持続可能な経済の実現にむけて、私たちが育む自然環境、歴史、文化の保護に貢献するとともに、広く一般に瀬戸内海の里海文化への理解と関心を芸術的観点から醸成し、環境再生の研究への助成と人材育成を行うことで社会に貢献する」ことを目的に掲げている。

以下、令和4年度に実現した実施事業の概要について報告する。

財団の中心となる事業は、「離島再生事業（小鷺島バイオアイル計画）」、「里海環境を保護する人材育成事業」、「情報公開・普及事業」であり、当財団令和4年度期の活動実績としては、下記のとおりである。

1. 植樹活動、清掃活動

令和5年4月8日（土）にボランティア活動として、総勢80名で桜街道再生植樹、清掃ボランティア活動を実施した。

本活動は、限界集落化した小佐木島において、古民家・耕作放棄地の再生及び島外からの桜並木再生植樹・清掃ボランティア、里海文化に触れる島内ウォーキングを通して、里海文化の振興活動を実施することにより、島外からの人の誘致及び島民との交流による地域活性化を目指すことを目的としている。

本年度の植樹祭は、ツツジ30本を植樹した。植樹活動と並行して、海岸に流れ着いているゴミの回収活動を実施し、海岸の景観保護に務めた。

小佐木島をより美しく、また多くの方に知っていただけるよう、植樹活動は、今後も継続しておこなっていく方針である。

2. 財団設立10周年史の製作

財団設立10周年を記念して、当財団のこれまでの歩みを振り返りながら、将来への展望を共有するために10周年史を製作した。この本は、当財団の小佐木島において果たしてきた役割や、地域社会との協力、人材育成プログラムの展開など、様々な活動を包括的に紹介しており、地域の方々や支援者、ボランティア、そして今後の協力を期待する

パートナー団体など、様々な方々に向けて、興味を持っていただけるよう編纂した。この10年史は、小佐木島と当財団が継続的に発展するうえで、重要なものとなった。

3. 新たな文化芸術担当及び里海環境保護担当の決定

当財団の学芸員として新たに尾身大輔氏を迎えることとなった。同氏は木彫を専門とする芸術家で、瀬戸内国際芸術祭へ2度の出展実績を持つ若手芸術家である。尾身大輔氏には小佐木島を舞台として、地域住民との深い関わりを大切にしながら、製作活動を行っていただきたい。そのために当財団は、尾身大輔氏に対する育成事業を継続的に展開していく方針である。

また、2024年7月に開催される尾身大輔展（主催：一般社団法人みはら文化芸術財団）にも積極的に関与し、当財団の目的である「瀬戸内海の里海文化を芸術的観点から醸成する」活動をおこなっていく方針である。

4. 風の子学園コンテナ撤去

以前、風の子学園で悲しい事件があり、地域住民は関連するコンテナ撤去を強く要望していた。当財団は地権者の特定から積極的な連絡と協力を行いその結果、地域住民が望む形でコンテナが撤去されることとなった。これからも地域住民と当財団が協力し合い、事件を風化させずに未来への希望を育む活動を継続的におこなっていく方針である。